

街路樹

学力向上に向けて③〇

～ ストーブ 談義 ～

寒気厳しい折、休み時間や放課後に職員室のストーブを囲んでいる時、先輩の先生から発せられる一言が参考になります。教員として成長の一番の機会・経験は、「校務分掌や仕事の割り当て」「職場の活性化・コミュニケーションの活性化」であると言われています。(中教審 学校の組織運営に関する作業部会) 校内における研修や校務分掌が、教員の力量を高める重要な役割を担っているということです。

力量を高め、プラトリー(停滞状態)に陥らないためには、ライフステージに応じた目標と手だてを考えることがポイントになります。

【若手期】学習指導力の例として

目標 他の教員の指導から学び、自分の指導を改善できる。
手だて 指導力の高い教員の指導場面を定期的に見て、疑問に感じたことを質問する。
目標 自分の指導の問題点に気付くことができる。
手だて 校内研究の授業者になり、授業の改善点をまとめる。

【中堅期】学習指導力の例として

目標 指導方法を工夫し、児童・生徒の意欲を引き出す指導、個に応じた指導ができる。
手だて ペアによる相互授業観察を行い、意見交換を行う。
目標 他の教員の授業を参観し具体的な指導・助言ができる。
手だて 若手教員の授業を参観し、助言する。

【ベテラン期】学習指導力の例として

目標 他者の指導上の課題をとらえ、分析・助言・提案ができる。
手だて 企画委員会等で若手教員の育成状況と課題を報告する。

校内研修や校務分掌の仕事を「ただやる」から「情報やノウハウの共有化の段階」へ、さらに「共有したものを省察(リフレクション)する段階」へと進むことが望まれます。

そして、ストーブを焚いているときは、時々換気(校外研修)をして外気を入れることもお忘れなく。

参考 OJTツール 福島県教育センター
OJTガイドライン 東京都教育委員会
街路樹 第18号 第33号

授業改善・指導技術 ②〇

～ ノート指導…授業づくりの基礎技術 その1 ～

ノート指導の先駆的な実践書といわれる東井義雄著「村を育てる学力」によると、ノート機能は次の4つに分類できる。

- 1 練習帳的機能…漢字・計算の練習をする
- 2 備忘録的機能…板書を写す
- 3 整理・保存の機能…調べたことをまとめる
- 4 探究的機能…考えたことを深める

1と2は、「情報を貯蓄する機能」であり、指導のポイントは、ノートを整理してきれいに書かせることであり、たとえば、①ていねいな文字で書く ②レイアウトをする ③色分けする ことを指導するとよい。

3と4は、「情報を発信する機能」であり、指導のポイントは、ノートに学習情報を「文として書く」ということであり、たとえば、①筆答のしかた(理由つきの答えを書く) ②理由を柱を立てて書くしかた(ナンバーリング) ③データを使った書き方(含む、引用) を指導するとよい。

学級経営のヒント ①9

～ 効果的な宿題、家庭学習の習慣化 ～

効果的な宿題とは、子どもがやってみたくなるような学習課題で、その成果を評価し活用するような指導の工夫が大切である。

- ①今日受け授業の整理ご役立つ
- ②次の授業の準備になる
- ③苦手な箇所の補充となる
- ④今日受けた授業の発展となる

家庭学習の習慣化は、「やらされる学びではなく、自分の学びを確立する」ことである。そのため、計画化と評価の指導が大事である。そのためには、次の①から④までのサイクルが必要である。

- ①子どもが自ら学習課題を考え(見つけ)
- ②どのようにするか計画を立て(一日の生活の中で考える)
- ③それによって学習し(学習したことや自分でしてみたい課題)
- ④評価する(他者による評価や自己評価をする)

—山梨大学教育実践総合センター客員教授 永田 徹—

「教育実践研究発表大会」感想より

～講演「子どもの好奇心に培う授業づくり」筑波大 坪田耕三教授～

- 「好奇心を培う」は好奇心が無いところへ何かしようとする。 「好奇心に培う」は子どもが好奇心を持っているという前提に育てようとする。演題の意味は教師としての姿勢を再度見直す機会となった。
- 坪田先生の「子どもが夢中になると家庭でも実践してみようとする」「教える側がいろいろ知っていると子どもの「なぜ。」に対応できる」等の言葉を今後大切にしていきたいと考える。
- 三角定規の角度の話など、何気なく取り扱っているものを、子どもの好奇心を高める教材に変えてしまうことに驚かされた。
- 「子どもは魅力のある存在なのだ」この言葉を大事に、また、頑張っていこうと思います。
- 子どもを夢中にし、子どもから声を出させ、それらの声から授業を子どもの手ですすめるということが出来る授業づくりに励みたいと感じました。

～研究実践発表、大会全体～

- 校内研修部会に参加し(模擬)授業が丁寧で参考になった。ワークショップ型事後研究会を体験できこれも勉強になった。
- 実践発表、授業改善部会のホームページをぜひ活用させていただきたいと思いました。
- 自主研究団体の発表は、若い先生から校長先生まで一緒になってとても活気あふれる雰囲気でした。
- 特別支援部会では、子どもの言動の裏にあるその子自身の心のあり様を気付き、子どもの気持ちに添った支援をしていく必要があると感じました。
- 携帯電話のアンケートについては、小・中、男女の携帯依存率の違いが明確化されていて、改めて、中学校女子の友人関係の在り方等に対しての指導について考えさせられました。
- 教育していく上で数多くの壁にぶつかる時があります。これを脱却するには「学び」しかない。学びのためには研修しかない。